

平成31年度 学校自己評価報告書

I 今年度の重点目標の取組

考察等	○「互いを尊重し、認め合う心」、「自ら進んで学ぼうとする態度」、「豊かな知力と健やかな身体」、「自己肯定感・社会貢献の意欲」「全校一致の生活指導」など、すべての項目について肯定的評価が多い。特別活動をはじめ各教科、道徳など様々な場面での取組が進められている。 ○全体的には肯定的な評価が多いが、特徴的な取組にはまだまだ課題がある。
改善策	○それぞれの項目において教員一人一人が「自信をもって取り組んでいる」と思える具体的な実践を進めていく。

II 地域とともに子供を育てる教育

考察等	○便りやホームページでの情報発信、保護者の対応や保護者との連携など、保護者との関わりについては昨年度以上に肯定的な評価が多い。教員の意識も高まってきている。 ○地域やPTAの活動に対しては取組が不十分と感じている。
改善策	○地域の活動やPTA活動については協力したくとも、休日や時間外の活動が多いため、なかなか実質的な活動に関われない現状である。学校として、できる範囲の取組や関係づくりにおいて積極的に進めていく。

III 未来を担う子どもを育てる教育

1 教育課程・教育目標

考察等	○教育課程をはじめとする教育計画に関する取組については昨年度以上に肯定的な評価である。組織的な取組や理念的な理解については課題を感じる評価もある。
改善策	○計画の組織的な進行については課題がある。教務主任を中心に業務の進行管理を丁寧に行い、分掌主任との連携を一層図る。

2 学習指導

考察等	○学習内容の基礎基本の定着への取組、授業計画の取組、言語活動、評価・評定など授業改善全般に関する取組については肯定的評価が多い。 ○ICT機器をはじめ、教材教具に関する整備については課題と感じている。 ○図書館活用については、その効果を理解しつつも実践に関して課題を感じている。
改善策	○教科日本語については、改めて研修等を通してそのねらいや指導法について確認し、効果的に取組が実践できるようにする。

3 道徳・特別活動・総合的な学習の授業

考察等	○道徳・特別活動・総合的な学習の授業等の指導における計画的な取組については肯定的評価が多い。それぞれのねらいに応じた指導も進められているところである。 ○道徳的心情や判断力、実践力については課題としている教員もいる。日々の学校生活の様子から判断しているものと思われる。
改善策	○道徳の時間の教科化を踏まえ、その取組については一層進められている。指導が必ずしもすぐに日々の実践力に結びつくものではないが、特別活動における実践的な取組と合わせて一層の充実を図る。

4 生活指導

考察等	○昨年度に比べ、どの項目においても肯定的評価が増加している。特に、「保護者対応」や「スクールカウンセラーの活用」については高い評価である。やはり、生徒の実態に応じた評価となっている。
改善策	○保護者対応に関する教員の意識をより高めていきたい。日々の保護者との丁寧な対応こそ、信頼ある学校づくり、安定した教育活動の源と考え進めていく。

5 学校行事

考察等	○生徒への取り組みせ方に関する項目についての肯定的な評価は高いが、学校行事そのものの工夫・改善については課題がみられる。
改善策	○学校行事については、常に精選と改善を図るとともに組織的な取組が求められる。新しい意見、考えを積極的に取り組んでいく体制を作っていく。

5 健康体力・特色ある教育・世田谷9年教育

考察等	○全体的に肯定的評価が高い。体育科や養護教諭、運動部の顧問を中心に子供たちの健康や体力の維持向上にかかる取組を積極的に取り組んでいる。 ○9年教育については、学び舎の研修等を通して連携が進められている。
改善策	○運動に関する二極化についての課題は依然残る。日々の取組以外に、特徴的な取組も必要と思う。食育の指導については、保健体育科、家庭科、養護教諭等の取組を学校全体で共有実践していけるようにする。

6 キャリア教育・進路指導

考察等	○進路指導については、学年ごとにねらいに応じた指導を進めている。職業に関する指導と進学に関する指導にとどまらず、生き方全般に関するキャリア教育として幅広い視点から指導を進める。
改善策	○2年度から導入されるキャリアパスポートの確実な定着を進めていく。

7 特別支援教育・教育相談

考察等	○特別支援教育コーディネーターと教育相談主任を中心にその取組を進めている。本校は、特別支援教室の拠点校であり、聞こえの通級も併設しているので教員の意識（肯定的評価）も高い。半面、課題意識も強く、個別指導等については昨年度からの課題である。
改善策	○今年度より、区内全校で「特別支援教室（すまいるルーム）」の運用が始まった。拠点校である本校の強みを生かして、各担当との連携を取りながら「不登校対策」「カウンセリング」などの特別支援教育と教育相談の充実を図る。

8 NIE・オリパラ教育・ESD

考察等	○NIE（新聞による教育）の取組も2年目となり、「読む」ことから「書く」ことに取り組んでいる。様々な教育活動に生かしていくことが課題である。 ○オリパラ教育は様々な取組が進められてきたが、ややマンネリ感を感じている。東京オリンピック・パラリンピックにとどまらず、継続的に進めていくことが求められる。 ○ユネスコスクールの取組についても、意味や趣旨についての理解が不十分な教員がいる。
改善策	○NIEについては、一層の定着を図る。 ○ユネスコスクールの取組については、教員の中での理解を一層進めるとともに、日々の教育活動のひとつひとつと関連付けることができることを確認していく。

9 部活動

考察等	○肯定的評価が多く、生徒と同様に教員も意欲的に熱心に指導を行っている。 ○組織的な運営について肯定的意見があるのは、部活動の教員の負担に偏りがみられることである。
改善策	○休養日の設定を含めガイドラインについて再度確認をし、生徒と教員の負担軽減を図るとともに、一層の指導の充実を図る。

IV 信頼と誇りのもてる学校づくり（学校運営・学校経営・学校評価）

考察等	○教員の学校運営・学校経営の参画意識は昨年度以上に向上している。I C Tについても、苦手意識をもっている教員も含め意欲的に取り組んでいる。 ○学校評価についても昨年度以上に肯定的評価が高い。
改善策	○主幹教諭・主任教諭以上に、若手を含めた教諭の学校運営・経営意識の向上を図る。

IV 信頼と誇りのもてる学校づくり（教職員・研修）

考察等	○教員は協力的に職務を進めている。服務への意識、教職員の人間関係に関しては昨年度以上に肯定的評価が増えている。 ○校内研修の一部が実施できなかった。
改善策	○業務改善を一層進める。より実践的な研修を行う。（次年度は評定に関する研修）

IV 信頼と誇りのもてる学校づくり（保健管理・安全管理）

考察等	○アレルギー、熱中症、感染症などの対応・研修をはじめ、保健管理については養護教諭を中心に計画的に進めている。また、安全管理についても、日々の点検をはじめ様々な取組を行っている。より、教職員の意識を高める工夫が必要である。
改善策	○安全に関する取組は、より実践的な練習が大切である。様々なケースを設定した訓練を行っていく。また、新しい感染症の対応を含め保健管理の一層の充実を図る。

V 教育環境の整備（施設設備、出納・経理、文書・情報管理）

考察等	○決して環境が整っているのではないが、今ある環境の中で、環境の維持・改善、有効活用を進めている。I C Tの設備に関してもその必要性の意識が高まるほど、環境への期待と要望が高まっている。 ○昨年度同様、出納・経理などの予算管理や文書管理についても肯定的評価が多い。
改善策	○施設にしても文書管理にしてもI C T機器にかかる問題が多い。世田谷区はシステム管理されているので、システムの能力を最大限に生かす取組を一層進める。 ○水筒・経理については、事務職員を中心に一層組織的に進める。